

4) 臨床進行度から見たがんの罹患

全部位の臨床進行度分布を見ると、割合が高い順に「限局」、「遠隔転移」、「隣接臓器浸潤」、「所属リンパ節転移」となっており、それぞれ42.2%、18.6%、12.7%、8.6%であった。「所属リンパ節転移」、「隣接臓器浸潤」、「遠隔転移」の割合を合わせると約4割が診断時に何らかの転移が認められたということであった。

部位別では、膵臓がんと肺がんにおける「遠隔転移」の割合が特に高く(45.5%、33.1%)、乳がんや子宮がんの「遠隔転移」の割合(5.7%、11.6%)とは好対照であった。

*表5-A参照

